

# 大切にしたい 地域でのたすけあい

出産後の家事がたいへん。一人暮らしの親が心配…家のことをちょっと手伝ってほしい。だれにでも困りごとは起きますが、そんなとき、周りの人たちで互いに助け合ってきたら安心ですよ。コープぎふでは、地域の人がつながる「くらしたすけあいの会」が、おたがいさま・ひだりが、会員同士支え合う活動をひろげています。今回はその様子をレポートします。

コープぎふ・くらしたすけあいの会

## めぐりあえた しあわせ

寒さが少し和らいだ2月のある日。くらしたすけあいの会を利用されている小島さんのお宅を訪れました。小島さんと、活動会員の石田さん。そこには、ほっこり暖かいひだまりがありました。

### 自分で難しいことも 手助けがあるから安心

「こんにちは。お変わりありませんか」。小島さんの玄関先、石田さんの明るい声から活動はスタートします。「料理は得意だけ



ど、体に負担のかかる片付けは難しい」という小島さんは、週に1回、台所と居間などの掃除を「くらしたすけあいの会」にお願いしています。

「石田さんが本当に良くしてくれて。自分ではなかなかできないことをしてもらえたら助かってます。家がきれいになって気持ちいいです」とっこり。

2年ぐらいのお付き合いという石田さんも、「小島さんはすごく優しい人。いつも喜んで感謝の言葉をかけてくださるので、やり甲斐を感じます」とお互いに心が通い合っている様子です。

多彩な趣味を持つ小島さんは、お菓子を作ったり絵を描くほか、手芸が得意で手芸教室の講師を勤めるほどです。実は、石田さんとはご近所。石田さんのお子さんが子ども会の行事で小島さんに手芸を教えてもらったりもしています。

「ご近所、家族、そしてたす

けあいの会など、周りの人た

ちに助けられています。町内やサークルの友達とも会う機会が結構あるんですよ。いろいろな人が気遣ってくれて、本当にありがたいですね」と小島さんはしみじみと話します。

### 会を利用する日を 楽しみにしています

また、こうしたお付き合いが順調に続くよう気を配るのが、コーディネーターの花田さんです。数ヶ月に一度、小島さんのお宅を訪ね、悩みや要望を聞きます。

「最も考えるのは、利用会員のさんの希望にどんな方がマッチするかということ。たとえば、テキパキと手伝ってという希望もあれば、体調のよくない方は静かさを望むケースもあるのです。柔軟性と相性が大切です。その点、小島さんと石田さんは良い関係を築いていたにいます。楽しく利用も活動してもらえるとうれしいですね」と花田さん。

## くらしたすけあいの会にいる もつひとりの「お母さん」

くらしたすけあいの会を利用して8年目の隈本さんは8歳、5歳、3ヶ月になるお子さんのお母さん。親子で収穫体験に参加するなど、コープがくらしの一部となっています。以前は活動会員として活動していました。現在は出産後の家事支援を週に1回お願いしています。



隈本さんと活動会員さん



「母に頼むような、そんな気持ちでお願いしているんです」と隈本さん。活動会員さんとは5年以上のお付き合い。気兼ねのない関係だからこそ、子育ての相談や、留守を預けることもできます。「自分で動けるときは動きたい。頼りっぱなしではなく、相談しながら一緒にできることが、たすけあいの会の良いところですね」





実際、小島さんは石田さんの来る日を待ちにしています。

た人に手を差し伸べる。そうした助け合いが地域にあれば心強いですね。

「石田さんのおしゃべりも楽しみ。一週間の出来事や体調について話しています」といいます。

人とのつながりは、今後、高齢化が進む上、いつどんなことが起こるか分からないからこそ大切にしたいもの。困っ



### もっと知って、参加してほしい 「くらしたすけあいの会」

くらしたすけあいの会事務局  
佐合ひろみさん



「利用者」を希望する活動をする「活動会員」、会の趣旨に賛同する「賛助会員」。くらしたすけあいの会には3つの登録方法があります。利用会員は現在174人。介護保険を適用できない家事援助などの希望が

増えています。また、活動会員は171人。自分の経験を生かして困っている方のお手伝いをしたい、時間を有効に使いたい、と活動しています。かつての利用会員が活動会員になったり、この逆のケースも。会員さんどうしが支え、支えられています。

お手伝いする内容は、ご相談ください。より多くの組合員に利用や活動の輪に参加してもらえたらうれしいですね。

連絡先/くらしたすけあいの会  
058137016876

## 「おたがいさま」でつながる、人と人の輪

おたがいさまひだ

寒さの残る3月の飛騨高山。道路の脇に積まれた雪が、冬の生活の大変さを思わせます。そんな、飛騨支所エリアでは、「おたがいさま」を合言葉に地域に密着した、有償ボランティアサービスをおこなう、「おたがいさまひだ」が活動しています。

### 「やれることをやる！」 自慢のフットワーク

「寒いのに遠くからよう来てくれんさったね。」飛騨支所で「おたがいさまひだ」のみなさんが取材スタッフを迎えてくれました。

この日は月に1回の運営

会議。利用者さんの状況や、今後の活動を報告します。また、会の仲間と話し合うことで解決できる問題がたくさんあると言います。「おたがいさまひだ」の特長は、なんといつでもフットワークの良さ。「自分がやれること



### 活動の源は「人の輪」

運営委員会中にも1本の電話が。

「あさって69人の託児?! ああ、あと10人集めんならんなあ」急な依頼でも対応されるんですか、という問いかけに「みつかるか心配やけど・・・おたがいさまひだはいい人がいっぱいやで大丈夫。集まるさ」と会事務局の村中さん。一同「そやそや」。

### 「人をつなげる」 おたがいさまの コーディネーターさん

「おたがいさまひだ」を立ち上げ時から見守ってきた、濱佳子(はまよしこ)さん。現在はコーディネーターとして、地域の困りごとを解決しようと努力しています。「コーディネーターの醍醐味は利用者さんと、応援者をうまく結び付けること。難しいことだけど、お話をよく聞いて、何に困っているのか、どんな手助けが必要なのかを理解するようにしています」。



(上)みんなの時間を少しずつ出し合って。メンバーのスケジュールはみるみるいっばいに。  
(右)地域のみなさんのおかれている状況と期待されること...ミーティングが厳しい内容になることも。  
(下3枚)ミーティング・たすけあいの事例の交流では、笑いの絶えないメンバーたち。「共感しあうことが、続けてこれたヒケツ」

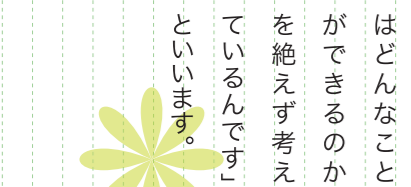


「事業」にしたら、できなくなってしまうことも、「おたがいさまひだ」なら、一人ひとりの思いで、困っている人を手助けできる。介護制

度では救い上げきれない利用者さんのために、自分たちがどんなことができるのかを絶えず考えているんです」といいます。

活動するには、利用者さんが住む地域と、応援者の活動可能地域のマッチングが重要。「自分がつながりが、別のところにつながっていく。それがうれしい。人の輪を大切にしたいんです」。

連絡先/おたがいさまひだ  
057713218986



「困ったときは「猫の手、お貸ししますよ」  
「おたがいさま」の気持ちをもって、助け合うことで、  
地域のみなさんとつながりを広げていきます。

